

国際感染症対策の現状と課題

天然痘の根絶がなされたことで、感染症の問題は過去のものになったと受け止められた時期もありました。その後、人類を悩ます新感染症が次から次へと登場してきています。

1980年代より HIV/AIDS、近年では SARS、鳥インフルエンザ、さらに現在は H5N1 型の新型インフルエンザへの備えに、社会の総力を挙げて取り組まれています。その他、ウイルス性出血熱、感染性下痢症などもくすぶり続けていますし、結核、マラリアなどの再興感染症の問題も解決していません。ポリオ、はしかについては、効果的なワクチンが存在していますが、根絶に苦勞しています。

途上国の感染症問題は、輸入感染症として先進国の問題ともなることが現実問題となっています。感染症対策は、単なる一国の公衆衛生課題ではないとの認識となってきたことから、近年はサミットの主要議題ともなっています。外交、世界経済にも影響する重要な政治課題という認識にもなり、感染症は、世界各国が協調して対応しなければならない問題となっています。一方、国際社会における感染症対策における資金の提供者の多様化に伴い、リーダーシップやパワーバランスも変化しています。

そこで、現在の国際感染症対策の現状がどうなっているのか、それを取り巻く環境がどう変化しているのか、それに対してわが国は十分な備えができているのかなどについて理解しておく必要があると考え、本特集を企画しました。



ペーパーイラストレーション／丹沢裕子